

# 牛久：学校周辺に見る自然

第11号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2019年5月26日発行

## ＜ 初夏のみずべ公園 ～②ハコネウツギに来る虫たち ＞

5月9日ひたち野うしく小3年生と、16日1年生とのみずべ公園の生きもの観察、今回はハコネウツギと、そこに来た虫たちの紹介です。



9日にはまだで、16日には咲いていたハコネウツギ。下の花から咲き進み、白からピンク、赤紫と色が変わっていく。

「いろいろな色があって、きれいですね。」という声が聞かれました。しかし、よく見ると、つぼみはどれも白ですね。そして、下の方の花ほど赤が濃いのです。じつはこのハコネウツギ、下の方の花から順に咲き進み、しだいに白からピンク、赤紫へと色が変わっていくのです。前号のアキグミも似ていますが、ずっと変化が大きいですね。



みつを吸う、トラマルハナバチ。頭をつつこんでみつを吸うので、花粉がその体にたくさんついて運ばれる。

花にはトラマルハナバチが来て、みつを吸っていました。大きくてこわそうですが、ミツバチ同様、たたいたりつかんだりしなければ、まず刺されることはありません。ベルのような花に頭をつつこんで



みつを吸うので、出てくると頭や胸など体にたくさん花粉がついています。花はみつをとられるだけでなく、花粉を運んでもらったのですね。

クマバチも来ていましたが、こちらは花の外側から口先をさしてみつを吸っています。みつをとるだけで、花粉は運んでくれません。ちょっとずるい気もしますが、ハチは、みつが吸えればいいのです。

花の外側からみつを吸うクマバチ。花粉は運ばれない。

また、この日は見られませんでした。例年ですとカラスアゲハやナガサキアゲハなどが来て、みつを吸っています。16日はまだ咲き始めでしたので、今頃はやって来ているかもしれませんね。



花にもぐって、みつや花粉かふんをなめる  
コアオハナムグリ。  
花にもぐるので、「はなむぐり」。

花にもぐって、花粉かふんやみつをなめているコアオハナムグリもたくさん見つかりましたね。花にもぐるので「はなむぐり」と名づけられました。緑がかったものから茶色ちやいろっぽいもの、黒っぽいものなどいますが、どれも同じ種類です。中には、1頭もぐっている花にやって来て、花粉かふんをなめているものもありました。他の花に行けばいいのに、うっとうしくないのかなと思いました。



葉はや枝えだには、ナミテントウやその幼虫ようちゆう、さなぎが見つかりました。アブラムシを食べに来ているのですが、昨年よりはいぶ少ないですね(30年度第14号を参考に)。

【理科支援員：宮内】

葉はについていた、ナミテントウのさなぎ。